

2024年9月期 第1四半期
(2023/10-12)

決算説明資料

2024年2月
株式会社CSSホールディングス

目次

- 決算ハイライト p. 2
- 事業セグメント状況 p. 5
- 事業トピックス p. 8
- ESG経営指標 p.11

連結売上高、前年同時期比898百万円増

空間プロデュース事業

前年同時期比 150百万円増

東洋メディアリンクス株式会社

音響特機株式会社

Mood Media Japan株式会社

- 防犯カメラ、AV機器等の販売・保守
- BGM・映像・香りによる空間ブランディング企画
- 大型・プロ仕様音響機器の卸販売

スチュワード事業

前年同時期比 555百万円増

株式会社セントラルサービスシステム

株式会社セントラルホテルサービス

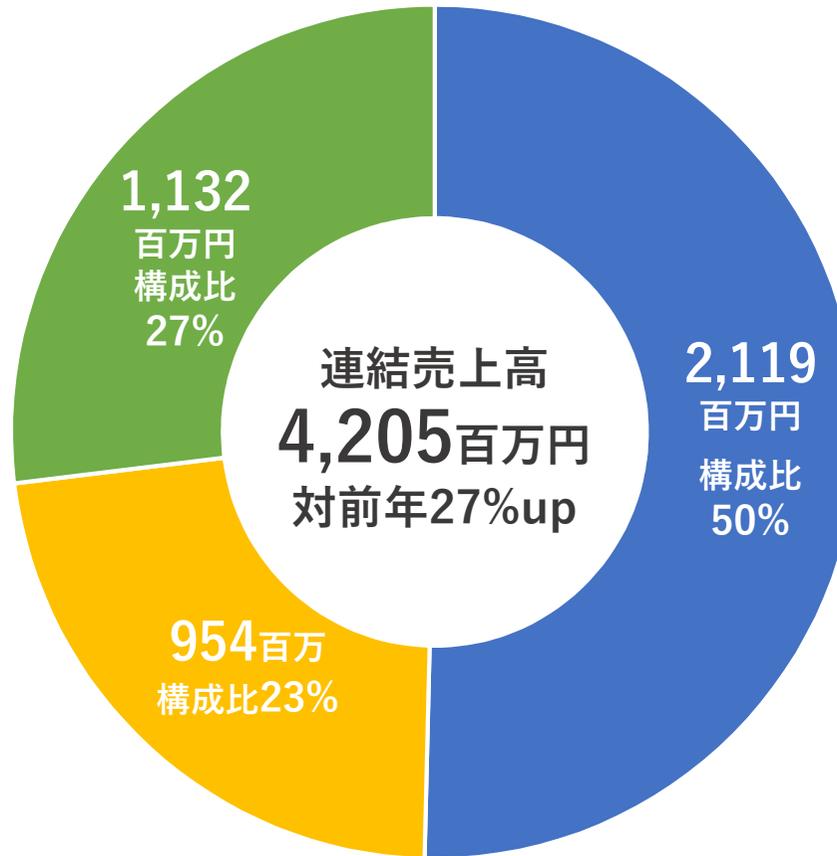
- ホテル・レストラン・テーマパーク等での食器等洗浄
- 同、客室・パブリックスペース・厨房等清掃

フードサービス事業

前年同時期比 193百万円増

株式会社センダン

- ホテルの朝食レストラン・従業員食堂の運営、介護施設の食事提供



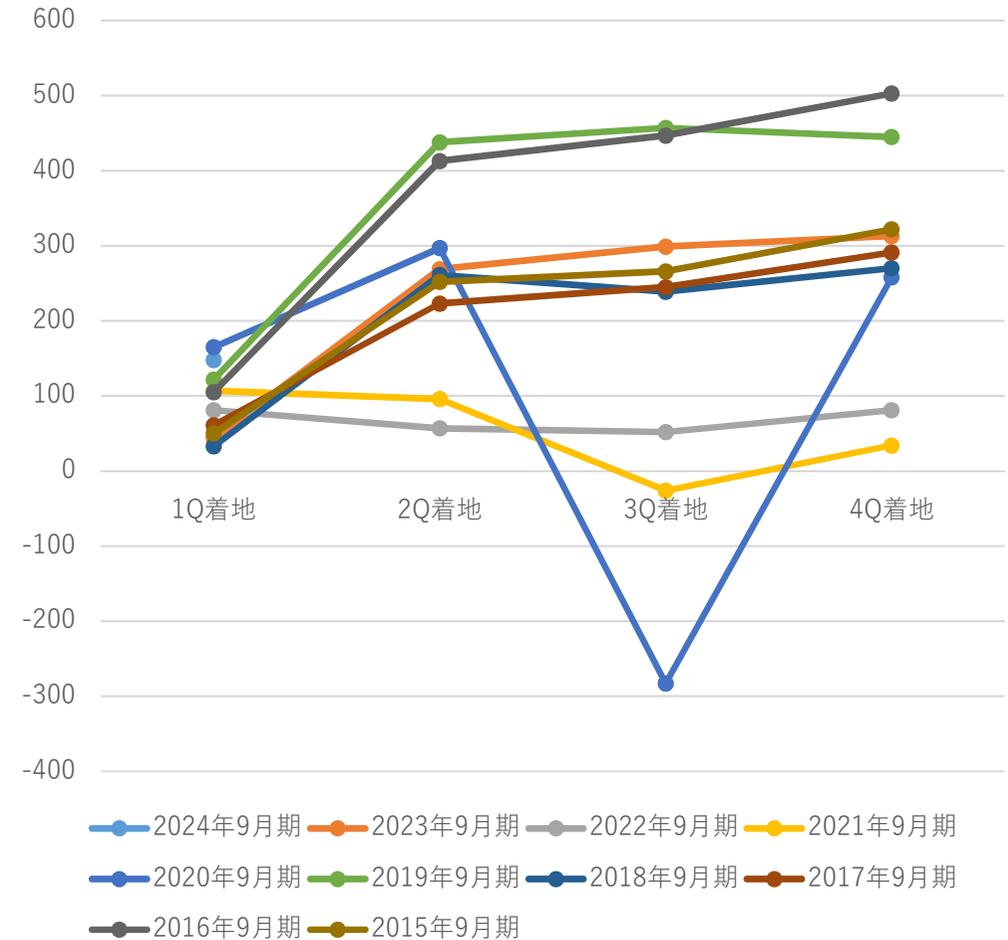
※セグメント間の内部売上高を除いております

※連結売上高はセグメントに含まれない総務・人事・経理管理事業等を含んでおります

第1Q累計経常利益、高水準スタート

(単位：百万円)

	1Q着地	2Q着地	3Q着地	4Q着地
2024年9月期	148			
2023年9月期	44	269	299	313
2022年9月期	81	57	52	81
2021年9月期	107	96	△26	34
2020年9月期	165	297	△283	258
2019年9月期	122	438	457	445
2018年9月期	33	261	239	270
2017年9月期	61	223	245	291
2016年9月期	105	413	447	503
2015年9月期	50	252	266	322



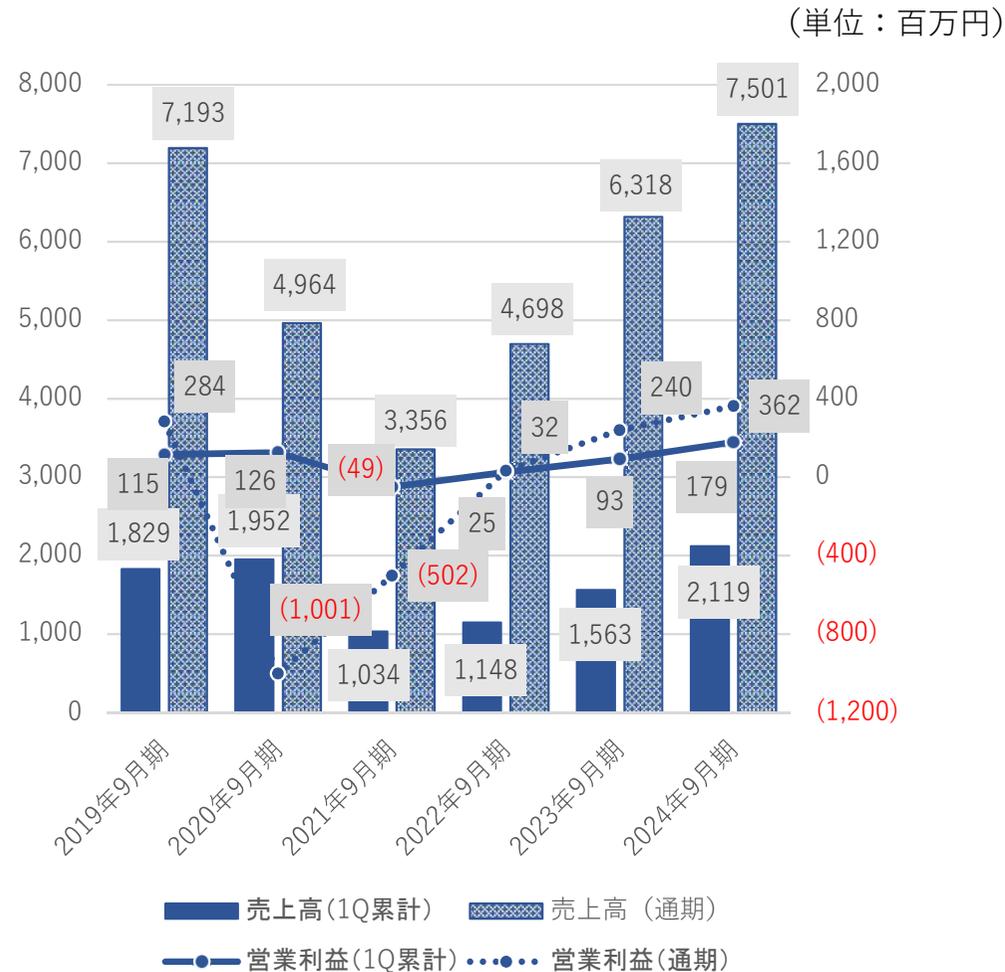
通期予想据え置き、通期配当20円予想

	2019年 9月期	2020年 9月期	2021年 9月期	2022年 9月期	2023年 9月期	2024年 9月期 予想
当期純利益 (百万円)	△110	23	△420	102	230	270
純資産 (百万円)	2,639	2,573	2,124	2,168	2,346	(2,389)
総資産 (百万円)	5,855	5,604	4,701	5,096	5,700	(6,033)
自己資本比率 (%)	45.1	45.9	45.2	42.6	41.2	(39.6)
ROE (%)	△4.0	0.9	△17.9	4.8	10.2	(11.3)
通期配当金 (円)	10	5	5	15	17	20
連結配当性向 (%)	-	107.5	-	72.7	36.9	37.9

※2022年9月期の通期配当金15円は記念配当10円を含みます
 ※2024年9月期の（ ）内の数値は第1Q末時点です

スチュワード事業

第1Q累計・通期の売上高・営業利益推移



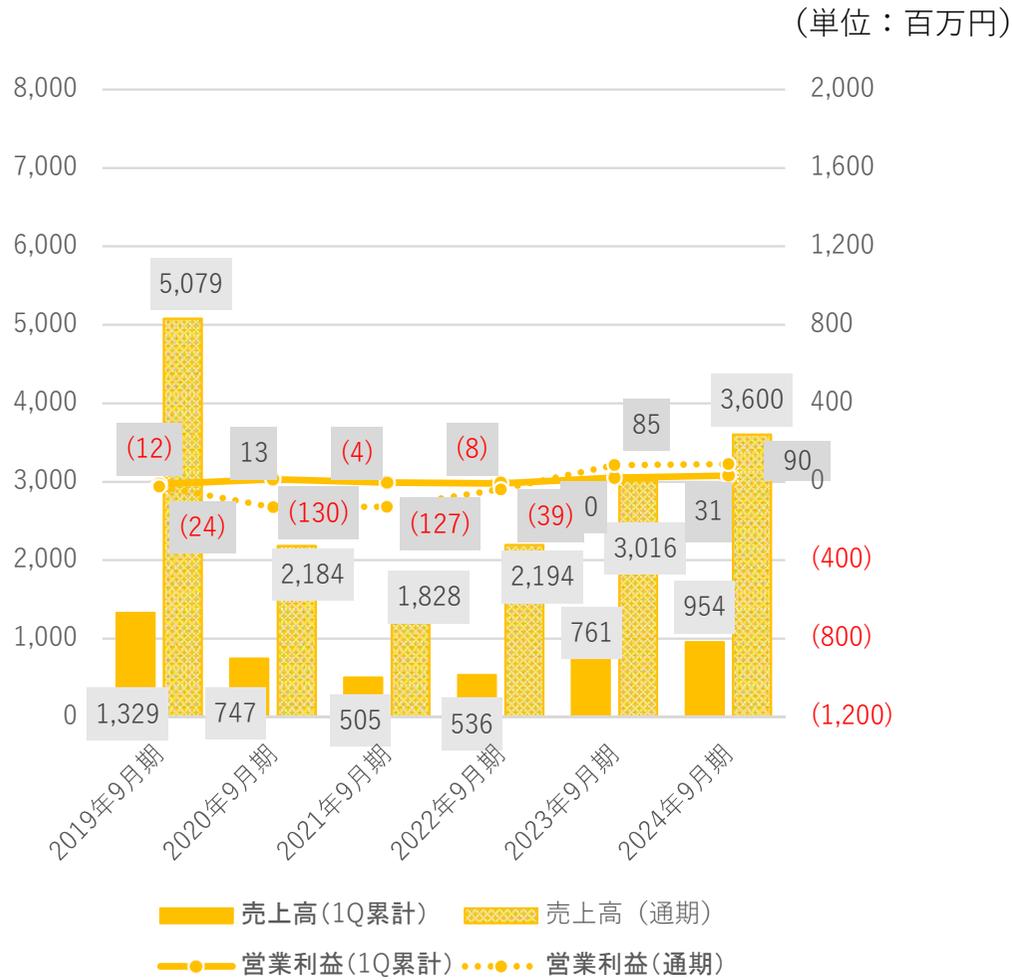
※2024年9月期の通期は予想

マーケット環境と取組状況

- 当第1四半期連結累計期間においては新規事業所として6件の開業を達成し、新規開業売上計画に対する予算達成率は19%に達しました。年度末に向けて新規開業実績は積みあがっていくことから、極めて順調な進捗と言えます。
- 人財の採用およびリテンションに必要なコストは上昇傾向にありますが、営業利益率は改善の傾向にあり、お客様の理解による価格転嫁やコスト削減が奏功しています。
- コロナ禍からの脱却によって業務量の基本水準が上昇していることから、基本契約のベースアップも進んでいます。依然としてピーク時の臨時発注業務はあるものの、モニタリング指標としている主要顧客の基本契約総額は、一年前と比較して18.7%アップとなっています。
- 売上高は2,119百万円（前年同期比35.5%増）となり、営業利益は179百万円（前年同期比91.4%増）と大幅な増収増益となりました。

フードサービス事業

第1Q累計・通期の売上高・営業利益推移



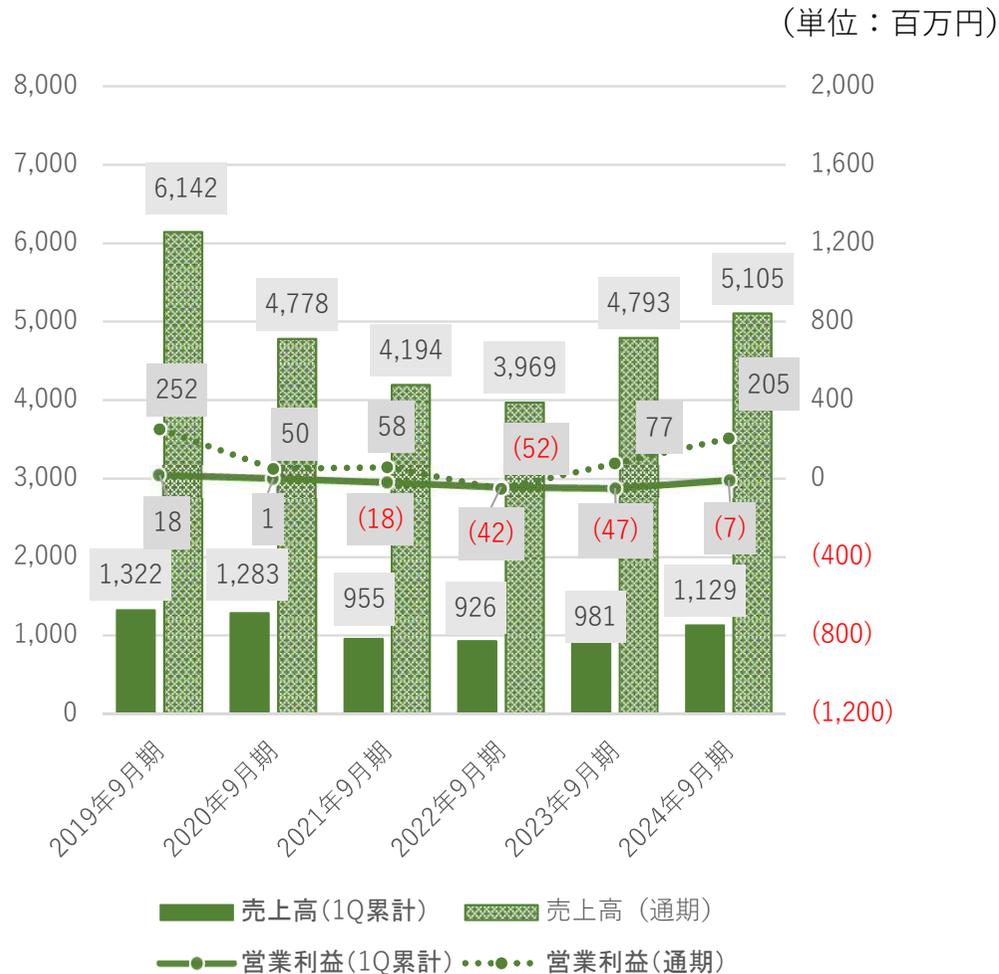
※2024年9月期の通期は予想

マーケット環境と取組状況

- 当第1四半期連結累計期間においては、4件の新規事業所を開業いたしました。特に朝食レストランの受託ニーズが堅調に推移しており、通年においても新規開業計画の中核となっています。全体の売上構成においても徐々にレストラン受託業務の比率が高まっており、当第1四半期連結累計期間において65.8%を占めるに至りました。
- 人財の採用に必要なコストはやはり上昇傾向にあり、当セグメントは食材コストの高騰も大きな影響がありますが、営業利益率は改善の傾向にあり、スチュワード事業同様に背景にはクライアントの理解による価格転嫁やコスト削減が奏功しています。
- この結果、売上高は954百万円（前年同期比25.4%増）となり、営業利益は31百万円（前年同期比53.6%増）と増収増益となりました。

空間プロデュース事業

第1Q累計・通期の売上高・営業利益推移



※2024年9月期の通期は予想

マーケット環境と取組状況

- 当第1四半期連結累計期間においては、景気の回復基調を受けて設備投資の機運が高まっていることを背景に、金融業界を中心にセキュリティカメラおよび音響設備の更新需要が堅調に推移、機器販売売上が伸びました。
- FCとの情報連携や技術協力を目的としたカンファレンス、あるいは展示会・デモンストラーション・研修会・メーカーミーティングといった販促活動機会が増え、AIセキュリティカメラの導入、空間プロデュースへの緑化・照明ソリューションの導入、テクノロジー統合型グリーウォールのプロモーションなど、新たな取り組みも推進・横展開販促を企画する段階に至りました。
- この結果、売上高は1,132百万円（前年同期比15.4%増）となり、営業損失は7百万円（前年同期は営業損失47百万円）と増収によって損益改善となりました。



テクノロジー統合型グリーンウォール「bio」をリリース



革新的なテクノロジーを取り入れたグリーンウォール、bio（バイオ）をリリースしました。屋内緑化が提供する健康と安定のイメージ、疲労回復とストレス軽減の心理効果に、当社の専門知識・ノウハウを融合致しました。独自の香り、心地よいBGM、鮮やかな映像ソリューションを組み合わせることで、緑化を超えた特別な体験空間を創造します。



アートグリーン株式会社と業務提携を発表



この業務提携により東洋メディアリンクスの既存のお客様はもとより、当社グループでサービスを提供している多くのお客様に向けて、アートグリーンの植栽ソリューションと東洋メディアリンクスの60年以上の視覚・聴覚・嗅覚マーケティングノウハウを融合させ、空間全体をさらに彩る新たな“おもてなし”の提案を図ってまいります。



InterBEE2023に出展



音響特機株式会社は、2023年11月15日（水）から17日（金）に幕張メッセで開催された「InterBEE 2023」へ出展いたしました。次世代を見据えた弊社取扱い8ブランドの各種システムを展示し多数の来場者にお越しいただきました。会議ソリューションにおけるプロセッサーや音響特機お勧めのスピーカー試聴会に参加致しました。

キンボシパスタカフェ 東京オペラシティ店オープン



株式会社パトリオットバトンが運営を行う「金星パスタカフェ」が東京都新宿区西新宿三丁目にある複合文化施設「東京オペラシティ」にオープンいたしました。自家製麺が自慢の「金星パスタ」は、関西で4店舗、関東で1店舗を展開する人気パスタ専門店、この度待望の関東エリア第2号店となります。

Scent Air社より表彰



東洋メディアリンクスのフレグランス事業における輸入・販売元である米国Scent Air社よりこの度、アジア地区で売上に貢献したとして表彰を受けることになりました。Scent Air社の香りを導入してから、約10年となり、初の受賞となります。今後もScent Air社と協力し、素敵な香りを皆様にお届けいたします。

リサイクル素材使用ユニフォームの導入



セントラルサービスシステムグループ、創業40周年に向けたユニフォームデザインのリニューアルとリサイクル素材を使用したユニフォームの導入とデザインが決定、4月より随時交換を開始いたします。この取り組みは、廃棄によるCO2削減や衣料品に使われる石油資源の使用量の削減に貢献することができます。



武蔵野調理師専門学校『環境と食』カリキュラムにてSDGsテーマの企業授業にて社長講義



武蔵野調理師専門学校の『環境と食』カリキュラム内で、SDGsテーマの企業授業の臨時講師をホールディングス社長の水野が務める機会をいただき、90分授業を4クラス、都合124名の生徒さんに熱弁しました。講義内容は、当社グループの事業内容や具体的なSDGsの取り組みに留まらず、これから社会に出る学生のみなさんへの期待に溢れるメッセージ満載となりました。



社内英会話教室のスタート



人財育成を目的とした「CSSアカデミア構想」の一環として、社内英会話教室をスタートしました。ネイティブスピーカーである外国人講師を迎え、親和性の高いホテル・観光セグメント従業員からスタート、グループ全体への展開を目指します。今後は英会話以外にも多様な分野での講義を展開し、人財の獲得・育成・開発・輩出に寄与する取り組みを行ってまいります。



大阪農業園芸・食テクノロジー専門学校の企業プロジェクトに参画



大阪農業園芸・食テクノロジー専門学校の企業プロジェクトは、企業からの課題に学生たちが取り組む授業で、お客様に喜ばれる商品をイメージし、食材選びやコストに配慮しながらメニューを開発します。商品として採用されて、実際に店頭で販売される作品もあり、より実践的に商品開発を学べるプロジェクトです。今回このプロジェクトにセندانおよびCSSホールディングスが参画し、学生が考案したメニューの企画プレゼンを受け、企画コンセプト・コスト、味、調理手順などを評価、優秀作品はグループが運営するナンバリボンで4月からメニューとして提供する機会に恵まれました。また、そのプロセスは専門学校の卒業制作展や、ATCホールにて進級制作展にて作品を展示され多くの関心を得ました。

人的資本指標（2022年9月末時点→2023年9月末時点）

連結従業員数

（うち、パート・アルバイト）



5,002名→6,559名
（4,521名→6,002名）

女性管理職比率



22.2%→20.4%

シニア従業員雇用率

※65歳以上



24.0%→19.7%

パート・アルバイト

永年勤続表彰者数



110名→127名
※2022年度および2023年度
の10年および20年勤務者合計

有給休暇取得日数



平均7.8日→7.4日

産・育休取得率
※女性社員



100%
（変化なし）

産・育休復帰率
※出産女性社員



3/5人→1/11人

外国人従業員
国籍数



67カ国→77カ国
※過去10年実績

免責事項

本資料は、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束するものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



CSSグループは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

お問い合わせ

株式会社CSSホールディングス 経営企画室

TEL 03-6661-7840

FAX 03-6661-7841

E-mail hld-info@css-ltd.co.jp